

令和4年度 地域ケアケース会議 発言要旨

ブロック	北部(第1圏域)	西部(第2圏域)	南部(第3圏域)
事務局	萱振苑・スローライフ北・スローライフ八尾	りゅうげ・ホーム太子堂・久宝寺愛の郷	楽寿・あおぞら・緑風園
テーマ (事例検証)	コロナ後の孤立化対策・情報収集と発信方法について	介入しにくい家族の支援	独居や身寄りのない方などの救急要請の課題について
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大により、人との交流や集合を避けなければならず孤立者が増加した。それに伴い支援者側も地域の高齢者の情報が入手困難となり、必要とする支援がわかりにくくなった。 ・対面の面談が出来ず、情報提供をどのような形で行うか課題。また高齢者側がどのように情報収集しているのか不明。 ・コロナ禍でICTの活用が必要だが、高齢者の活用状況が不明。支援者側もICTの環境整備や手技等知識不足な面がある。 ・高齢者訪問を行うと、家族も支援が必要な状況で、複合した問題を抱える家族が増えている。 ・各々の支援機関は支援対象者の年齢等限定されており、家族全員の支援が出来にくい。各々の支援者が必要だが、支援者につなぎにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人にとっては支援の必要があったとしても、家族から介入を拒否される場合がある。拒否する原因として、家族自身に何らかの障がいがあったり、理解力の低下がみられるケースがある。また、介護者のこだわりが強く、サービス利用に繋がりにくかったり、理由もわからず関わりを拒否されたりする場合もある。 ・家族と支援者をつなげ、支援を円滑に進めるため、アプローチ方法の検討が必要である。 ・家族支援の相談窓口が明確ではないため、必要な機関につなぎにくい現状もある。情報の収集や社会資源の活用等が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の救急搬送の事例検討から救急搬送時に同乗を求められ、支援者が役割以上のことを求められている現状がある。 ・救急医療情報キット(以下キットと略す)がどの程度周知・活用されているかわからない。 ・キットの情報内容が更新されていないことがあり、緊急連絡先につながらないこともある。 ・キットの必要性が高い人ほど一人で必要な情報を書くことが出来ない事が多い。家族に情報更新の依頼をするが、協力してもらえないことが多い。 ・キットを正しく活用できていない現状もある。(冷蔵庫の中に入れていない・玄関の内側にシールを貼ることになっているが、玄関の外側に貼っている・冷蔵庫にシールを貼っていない等) ・キットについて関係機関でも詳しく知らない方が多い。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症は終息していないが、人数制限や感染対策を講じ集合での行事開催や個別訪問等徐々に再開した。 ・第一圏域の一部地域では地域情報誌で情報提供を行っている。包括でもニュースレターを作成し情報の周知を行っている。 ・高齢者のスマートフォンの活用状況をアンケート方式で聞き取ったが、持っていない人の方が多い。持っていても活用方法まで理解されておらず十分な活用は出来ていない。 ・支援者側もICTの環境整備が不十分、尚且つ手技手法等知識不足で活用に至るには課題が多い。 ・コロナ禍により面談や従来の支援方法の良さが再認識出来た。 ・複合した問題を抱えた家族が増えており、多機関との連携や重層的支援が今後ますます必要となってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の虐待対応の傾向として、被虐待者よりも虐待者自身の支援が必要になるケースが多い。家族(特に子)に障がいがある場合、高齢者は障がいを抱えている家族がいることを隠そうとするケースも多く見られる。訪問自体を拒否されたり、必要性を理解してもらうことが難しいケースも多い。 ・支援介入においては挨拶から始めるなどのきっかけづくりからアプローチをしたり、実際に足を運んで顔を覚えて貰うようにするなど、信頼関係を途切れさせないよう、諦めずに訪問し続けることも大切である。 ・地域として粘り強い見守りを続け、家族のちょっとした変化に気づくような気をつけることも必要である。また、相談窓口を明確にすることも必要である。 ・個別ケースのニーズを把握し、必要時には関係機関につなげることが必要であるが、実際に家族の支援につながるサービスにはどのようなものがあるのか、支援者側も把握しきれていないと思われる。今後知識を深めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キットの活用状況について病院看護師に確認すると、知らない人が多数だったが、「キットの情報があれば助かる」「情報更新が課題」との意見があり、キットについての周知・啓発の機会となった。 ・第三圏域のケアマネジャーにアンケートを実施。救急搬送時に困った事がある方は半数以上いる。救急医療情報キットについては、8割以上のケアマネジャーが知っているが、活用されているかはわからない。また、8割の方が更新状況を把握できていない現状にあった。 ・キットは八尾市在住の65歳以上の独居高齢者が対象。民生委員との間で同意があった方のみキットを配布している。公式活動ではなく、自主活動(ボランティア)として活動している。 ・年に1回、民生委員がキットの更新用紙を配布しているが、どこまで情報を更新されているかは不明。 ・キットには個人情報が多く含まれている為、悪用されないような注意も必要。浅く、広く周知する必要もある。 ・救急隊員はキットについては全員把握しているが、活用した実績は数えていないので不明。搬送される方の意識がない場合に活用している。 ・専門職向けにキット活用に向けての啓発チラシを作成し、圏域内の委員に配布する。

ブロック	中部(第4圏域)	東部(第5圏域)
事務局	長生園・サポートやお・成法苑	寿光園・信貴の里・中谷
テーマ (事例検証)	8050問題の孤立化における世帯の背景の視点について 【孤立化予防、情報の共有・発信の体制づくり】	人生会議について
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域特性としてマンション、団地、オートロックマンションが多い。 ・地域の清掃ボランティアをしている時に、オートロックマンションに住む高齢者から荷物の移動を手伝ってくれないか相談をうけたが、室内は肩までの荷物が積み上がっていた事例があった。 ・オートロックマンションでは、挨拶しても無言で通り過ぎる孤立状態また部屋の前に物が散乱しても無関心でスルーされる環境である。 ・周囲の無関心が孤立を増長させている。 ・無関心な人達に対してどうすれば関心を持ってもらえるのか。 ・どのような啓発をすれば効果的な啓発ができるのかを検討する必要がある。 ・隣に住んでいる人の顔もしらない、話をすることもない関係は困りごと気づくことすらできない。 ・相談窓口の啓発の課題:誰もが活用する場所:コンビニ、ドラッグストア、病院、薬局、相談窓口のわかりやすい効果的な啓発が不十分ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人生会議という言葉をあまり聞かない、知らない方もおられ人生会議についての普及啓発が必要。 ・子から親に人生会議のような話は、話しづらく、切り出しにくい。 ・医療フォローする上で、本人よりも家人の希望事が多いと感じる。 ・人生会議と言うネーミングが重たく感じる。 ・自分の思いを伝えたり、書いておかないと誰も知らないままになる。 ・身近な人が急に入院し、延命処置について聞かれ戸惑った。 ・誰もが、意思疎通が取れない状態に、いつなるかわからない。 ・実際にノートに書いてみたが、書きづらいことが分かった。 ・高齢者の中には支援者には思いを伝えているが、家族に伝えていないこともある。 ・看取り期に入ると必然的に検討の場面が生じるが、その前の段階ではその意識を持ってない人が多い。きっかけ作りが必要。 ・その時が来ないと、日常会話の中では話しにくい内容である。 ・人生会議の認知度を上げていく必要がある。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションが多く、中でもオートロックマンションなどは孤立を招きやすい。自治会加入も低下し、住民同士の関係がより希薄。 ・隣に住んでいる人の顔もしらない、集まって話をする機会もなかなかないため、困り事に周りが気付くことがなければ相談、支援につながりにくい。特に災害時には自助だけでなく、近隣住民同士の助け合いが重要である。 ・地域住民同士が気づける関係を作るための地域のとりくみ活動はとても重要である。自治会に加入されない住民やマンションも増える中、新型コロナウイルスが流行し3年が経過。その影響も大きく、地域での集まり・つながりがより希薄と思われる。 ・地域のつながりが希薄になると孤立する住民も増える。高齢者に限らず、若い世代でも言える事ではないか。 ・地域の中で孤立しない・させないためには無事旗などの取り組みを通して地域とのつながりを意識することが必要である。 ・若い世代や高齢者と分け隔てることなく、住民同士が気づき合える関係を日頃から構築することが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な時から今後のことを話し合っておくことや話し合った内容を書き留めておくということを認識してもらうことが大切である。 ・人生会議をするには、ノートがあった方が、話しやすい。 ・事例を用いて、こんな時あなたならどうしますかとたずねる形で、伝えると受け入れてもらいやすいのではないか。 ・各種資料を繰り返し提示していくことから始めれば、少しずつ浸透していくのではないか。 ・市役所の待ち時間に、テレビなどでアニメーション化したものを見てもらえば、人生会議を知る機会になってよい。 ・高齢者だけでなく、家族に対しての啓発も必要。 ・手に取りやすいサイズの冊子を窓口に置くと、持ち帰ってもらえる。 ・「人生会議」という言葉やその内容に触れる機会を多く持つことで周知に繋がるため参加機関の活動範囲内で啓発できるよう取り組んでいく。(機関内で周知、ポスターやチラシ、映像、インターネット等様々な媒体を活用。)